

文化大臣ミシェル・ギィにおける
ダンス・コンタンポレンヌの推進
The Promotion of “Danse Contemporaine”
by Michel Guy, Secretary of State for Culture

寿田裕子（舞踊学会）

1. はじめに

1968年五月革命以後、文化省組織内部の再編により業務を展開した音楽・オペラ・ダンス局は、ランドゥスキー局長の下で「フランス音楽界の組織化に関する10年計画」を実施した（Filloux-Vigreux 2001:32）。計画はダンス部門にも措置が講じられ、専門の監査官の設置、授業計画の編成、振付カンパニーの創設が着手された。1974～76年に文化大臣を務めたミシェル・ギィ（Michel Guy 1927-1990）は上演芸術に向けた政策を実施したことで知られる。ギィは地方分散の軌跡をさらに前進かつ発展させる主導権を握り、彼の任期は国の文化政策が低迷期に入りつつも「文化的盛り上がり」（ロワイエ 2001:84）をみせた。本発表では、文化大臣ミシェル・ギィの任務に着目し、関連文献及び資料を通して、当時のダンス・コンタンポレンヌの施策を検討し、ダンス・コンタンポレンヌの制度的基盤整備について考察する。

2. ミシェル・ギィの政策方針

ギィは文化政策の基本的課題「文化教育」「創造」「普及」「研修」「文化遺産の保存と向上」の均衡を保ちつつ、国と地方自治体が共同で文化発展を行うことを目指す（Filloux-Vigreux 2001:65）なかで、上演芸術に対して「文化協約」と「国営芸術普及事務局」を発案する。前者は地方自治体が自主的に文化活動に取り組むよう推奨した取り決めで、後者は上演芸術に関わるプロの環境と擁護を支援する非営利団体の設立である。彼の発案により、演劇部門とパリ・オペラ座に莫大な予算が投入される。演劇部門では劇団への助成金交付、若手芸術家への支援、国立高等演劇学院の改革、パリ・オペラ座には主要な上演作品の放送許可と引き換えに恒常的援助の約束、彼の方針が上演芸術の「普及」に力点を置いていたことが窺える。

3. ダンス・コンタンポレンヌの推進への施策

ギィの任期にはダンスに関する包括的な計画は示されなかったが、ダンス・コンタンポレンヌの推進に向けて次の施策が講じられた。

①ダンス総監の職務の配置：75年ダンス総監にジャーナリストのイゴール・エイズネルを任命。ギィの方針を引き継ぎ、彼は86年までダンス・コンタンポレンヌの発展に尽力する。②振付芸術

の普及を強化：パリ・オペラ座を含む水準の高い振付芸術を提供するカンパニーの巡業の奨励。オペラ座はカロリン・カールソンを招聘して舞台研究グループを結成、国内外の巡業、フェスティバルや文化活動の参加を通して、大衆的なパリ・オペラ座像を広めていく。更にアヴィニオン演劇祭やフェスティバル・ドートンヌのように、振付作品をプログラムに編成する演劇や芸術フェスティバルに支援する。また国営芸術普及事務局を通じて、放送局にダンス番組のテレビ放映を奨励、ローラン・プティ振付『コッペリア』が制作される（Dardy-Cretin 2007:50）。③ダンスの教育管理とジャンルの異なるダンステクニックの導入の検討：76年アヴィニオン市郊外でマース・カニングハムの講習会、パリでアルヴィン・ニコライの講習会を開催。またベジャールの芸術学校ムードラのメソッドの指導計画が検討される。④地域圏の自治体へのダンス・コンタンポレンヌのカンパニーの設置計画と交渉：パリ地域でミシェル・カゼルタやセルジュ・クーテンのカンパニーの拠点の確保が進められる（Dardy-Cretin 2007:51）。⑤若手ダンスカンパニーへの支援の開始：76年ドミニク・バグエへの補助金の給付が注目される。

ギィは振付芸術を上演芸術の枠組みに配し、巡業の奨励、フェスティバルのプログラム編成、番組制作とテレビ放映、新聞・雑誌への掲載と多角的なやり方で、振付芸術の普及を強化した。その上、振付芸術に必須となるダンス・クラシック以外のダンステクニックの導入を働きかけ、若手振付家の支援を定めた。ギィの任期は僅か2年だったが、舞踊界に精通したジャーナリストをダンス総監へ任命させることにより、彼の構想するダンス・コンタンポレンヌの推進計画はさらに整備され、80年代の左翼政権の台頭を経て、ジャック・ラングが実現するダンスの制度的基盤の確立へ向かったといえる。【主要参考文献】 Michèle Dardy-Cretin, *Michel Guy Secrétaire d'État à la culture 1974-76, un innovateur méconnu*, Comité d'histoire du ministère de la culture et de la communication, 2007. *La danse et l'institution. Genèse et premiers pas d'une politique de la danse en France*, L'Harmattan, 2001. エマニュエル・ロワイエ、八木雅子訳「ヴァレリー・ジスカール＝デスタン政権下の文化政策 1974-81年」『文化と社会—現代フランスの文化政策と文化経済』芸団協出版部 1999:80-99。